

平成24年度補正の概要が公表されました。

畜産経営力向上緊急支援リース事業

【現状・課題】

補助率:機械代相当額の1/2または1/3以内
事業実施主体:農業者の組織する団体等

- 畜産経営等においては、配合飼料価格の高騰・高止まりにより生産コストが上昇し、経営環境が極めて厳しい状況。
- このため、畜産経営等が、高性能機械等を導入して生産性を向上させること等により生産コストを低減し、経営体質の強化を図ることが喫緊の課題。

【対応】

リース方式による機械の導入



リース方式での導入により単年度当たりの機械等の購入に係る費用を低減することが可能であり、一度に多額の資金を融通することによる負債の増加を抑制することが可能。

(例)

生産性・飼料自給率の向上



通風装置



エコフィード給餌機

畜舎の温度制御やエコフィードの活用に必要な通風や自動給餌などのための機械を導入

飼料生産受託組織等の経営高度化



フォレンジハーベスター

飼料生産受託組織等による刈取、細断・積込、梱包、ラッピング・貯蔵に必要な高性能な自給飼料生産・調製機械を導入

飼料原料の多角化



原料タンク



粉砕機

こうりゃんなどのとうもろこし代替原料の定着に必要な貯蔵や粉砕などのための機械を導入

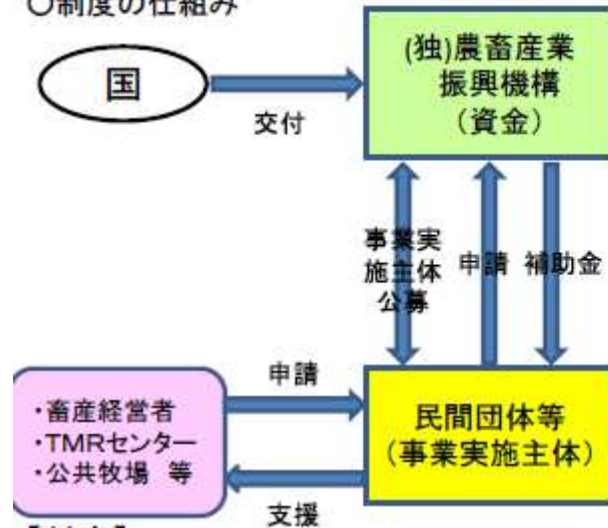
飼料自給力強化支援事業

【現状・課題】

〔 補助率:定額、1/2以内 事業実施主体:民間団体 〕

- 輸入粗飼料価格の高騰や中国産稲わらの輸入停止などにより、粗飼料輸入の安定性が損なわれる中、粗飼料の自給力の強化に向けた取組の加速が必要。
- 既存の草地や飼料調製施設の長寿命化や新技術への対応を進めるとともに、国産稲わらの利用拡大を図る。

○制度の仕組み



○飼料自給力強化に係る課題

- ・大型機械の出入や流水による土壌浸食等により一部が荒廃することにより、草地全体の利用が困難。
- ・現状での国産稲わらの飼料利用割合は1割にすぎず、天候不順への技術的対応や広域流通を進める必要。
- ・既存のTMRセンターの経営安定を図り参加農家の増加や粗飼料調製技術の高度化を図るとともに、コントラクター等の面集積への対応が必要。



【対応】

- 民間団体による飼料自給力の強化を図るための組織的な取組に支援するための交付金を、(独)農畜産業振興機構に交付。

○組織的な採草地の修復、放牧施設の改修



○輸入稲わら等から国産飼料利用への移行のための試行的利用



○外部の経営評価を受けてのTMRセンター等の施設や付帯施設の改修、面集積



補正事業の詳細に関するお問い合わせは山梨県農政部畜産課まで TEL 0552-223-1608

家畜の疾病は西部家保まで TEL 0551-22-0771 (平日) 夜間・休日の連絡は...090-5564-1018または090-5568-0817